

特産「安納いも」

大嘗祭へ供納

「11月11日」JA種子屋久の西之表市青果用さつまいも部会が、種子島の特産品である「安納いも」を、天皇陛下の皇位継承祭祀（さいし）「大嘗祭（だいじょうさい）」の「庭積の机代物」として供納しました。

祭祀は14、15日で、全国の農林水産物が集まり、鹿児島県内からは、7品目（茶、安納いも、ピーマン、早掘りタケノコ、本枯れ節、コメ、アワ）が、11日までに宮内庁に発送されました。同部会では一部の部会員が日本版農業生産工程管理（JGAP）を取得しており、その中から色、形の優れた10本を選び丁寧に箱詰めし、発送しました。

谷部会長は「重要な祭祀に種子島の安納いも



を供納できて光栄です。これからも安心・安全な安納いもを作り、消費者に喜ばれる商品をお届けしたい。」と話しました。

種子島産・安納いも

ビール販売記者会見

「11月26日」キリンビールの子会社・スプリングバレーブルワリー（SVB、東京）は、種子島産の安納いもを使ったクラフトビール（発泡酒）の販売記者会見を開き、当JAから谷部会長と小山常務が出席しました。ビールは、29日からSVBの東京店限定で、360ミリリットル930円で売り出されています。

醸造責任者の古川淳一氏（鹿児島出身）は、「甘味のバランスが難しかったが、良い香りに仕上がった。」と話し、当JAの小山常務は、「安納いもの認知度をさらに上げていきたい。」と期待を込めました。

安納いものビールは、12月1日のJAまつりでも、無料試飲が行われました。



▲左が安納いもを使ったビール

所得向上を目指して

熊毛地区肉用牛

多頭飼育者・新規就農者研修会

「11月22日」種子島家畜市場で、基礎知識の習得や繁殖関係の技術、肉用牛生産者所得向上を目的に、令和元年度熊毛地区肉用牛多頭飼育者研修会を開催し、多数の生産者・関係者が参加しました。

飼育頭数20頭以上の生産者や新規就農者等を対象とした研修は、各種表彰の他、3つの講演が行われました。

経済連肉用牛課の大里氏は、本県肉用牛の飼養動向・分娩間隔・死産事故について状況を説明し、また経済連独自のモデル事業・助成事業を推進。

中央家畜保健衛生所熊毛支所の松崎氏は、農場の消毒について消毒の種類・使用方法・最適な温度・濃度等について説明し、防疫の徹底を呼びかけました。



県肉用牛改良研究所の上村氏は、肉用牛改良について現状と課題、県有種雄牛の特徴と活用方法によって畜産経営の所得向上に繋がるように説明。内容の濃い講演が行われ、皆真剣に聞き入っていました。

